セイコーエプソン株式会社

https://corporate.epson/ja/sustainability/environment/biodiversity/

《将来に向けた取組方針》

エプソンは事業活動や社員の生活による生物多様性との関わりを認識し、「事業を通した生物多様性の保全」と「生物多様性に対する意識を高める」ことに取り組んでいる。環境ビジョン2050では「カーボンマイナス」と「地下資源*消費ゼロ」を達成目標とし、自然資本をベースとした企業活動の考え方をもとに国際的な環境保全活動へ貢献する姿勢を示している。特に循環型経済の中心となる資源循環への対策を講じることで、地下資源への依存からの脱却を目指し、生態系への負荷を減らす努力を続ける。

* 原油、金属などの枯渇性資源

〈商品・サービスでの取り組み〉

●乾式オフィス製紙機「PaperLab」

独創のドライファイバーテクノロジーの開発により、オフィスでの紙再生を可能にした。これにより、森林資源の有効利用と、紙の「地消地産」(手元での紙循環)が実現する。オフィスでの使用にとどまらず、地域における古紙活用の共創によって、地域内で紙資源を循環させる取り組みも進んでいる。

参考リンク：紙の循環から始める地域共創プロジェクト「KAMIKURU」

〈自然環境の保全と回復に向けた活動〉

●世界の森林の保全と回復に向けたパートナーシップ

世界的な環境保全団体である世界自然保護基金（WWF）とのパートナーシップにより、「森林破壊の最前線」の現場でWWFが実施する森林保全活動や自然回復のための活動を支援している。

(2023年3月より3年間のインターナショナル・コーポレート・パートナーシップ開始)

参考リンク：
パートナーシップ
特設サイト

Working in Partnership for the Future of the Forest.

〈エプソングループの志〉

エプソンは、経営理念に掲げる「地球を友に」を実現するため、企業行動原則に「自然環境の尊重」を制定。自然資本に配慮したものづくりと、社会の一員としての心掛け、行動の内容を示している。